

第3学年 外国語活動学習実践

○学年の取り組み

①English スタンプラリータイム

毎回の授業の初めに、English スタンプラリーに取り組む時間を確保した。ALT や担任、友だちと英語で話す時間になっていたことが、その後の活動で、自信をもって英語で会話することにつながった。

②授業のパターン化

「English スタンプラリータイム」→「あいさつ」→「チャンツ」→「ワードの確認」と毎回の授業の初めをパターン化することで、児童が安心して外国語活動に臨めるようにした。



③語彙や表現に慣れ親しむ活動

各単元の言語材料は、慣れ親しむことができるように、繰り返し指導してきた。ALT や担任の発音を模倣したり、実際に使う場面をジェスチャーなどで例示して表現したりする活動に多く取り組んだことで、児童の英語の語彙が増えた。



④外国語での説明

外国語活動では、なるべく日本語の説明にならないように簡単な英語での説明を心掛け、デモンストレーションや児童ボランティアで視覚的に理解できるようにした。「ビンゴゲーム」や「キーワードゲーム」「ミッシングゲーム」などの分かりやすい活動も多く取り入れた。しかし、必要に応じて日本語での指示も入れ、十分な活動時間を確保できるようにした。



⑤意図的な中間指導

Activity や児童同士が交流する場面では、まずやらせてみて、うまくいかないところや困ったところを解決できるような中間指導を行った。非常に効果的な手立てだと実感した。

○子どもの姿（成果と課題）

研究テーマにある「授業スタイルの確立」という点では、活動をパターン化することで、児童は「外国語の授業が始まるからスタンプラリーの準備をしよう。」と、授業に向かう姿勢や切り替えが上手になったと感じる。また、語彙や表現に慣れ親しむ活動を多く入れることで、外国語活動の授業だけではなく、日常生活の場面でも、「What's this?」「Yes, I do.」などと英語で会話することも増えてきた。English スタンプラリーの効果もあったのだと思う。「活動の工夫」という点では、分かりやすい活動を多く取り入れることで、児童が飽きずに楽しく活動できたと感じる。言語材料を発音するときは、なるべく回数を多くできるように ALT と相談し、言い方を変えてみたり、共通点を見つけるなどゲーム性を加えてみたりした。これらの取り組みから、児童は英語での発音や言い回しに慣れ親しむことができたと思う。

一方、活動の中で児童がゲームに夢中になり、日本語で伝えていることがあった。担任や ALT に、この日本語は英語で何と言うのかと尋ねさせて、より英語を使って会話や活動することを意識させたいと感じた。